

令和7年度 学校自己評価システムシート (県立大宮工業高等学校 全日制)

目指す学校像	日本を支え 世界で活躍する 人間性豊かなエンジニアの育成 ～ 小中学生に憧れを！ 在校生に自信を！ 卒業生に誇りを！～
--------	--

重点目標	1 主体的に取り組む力を育て、学力向上を目指した授業改善を図る 2 自ら律する規律性を育て、自他を大切にできる心を育成する 3 物事を探求する力を育て、望ましい勤労観、職業観を育成する 4 協働教育により、社会に開かれた教育課程を実現する
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
7 年 度 目 標					7 年 度 評 価 (2 月 1 9 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	今年度の評価項目の達成状況	次年度への課題と改善策	
1	<p>【現状】 授業及び学校生活に対する積極的な姿勢が生徒に広がりつつある。</p> <p>【課題】 自発的な学習意欲を高め、資格取得などを通じて自己成長を促すための支援を強化する必要がある。同時に、指導と評価を一体化し、観点別評価を活用した学習改善及び授業改善に努める必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習改善及び授業改善 主体的な探究の支援 生徒の成長過程を可視化 資格取得への支援 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒に対し評価方法を明確にして、学習意欲を高める。 生徒が「聞くだけ・書くだけ」の授業ではなく、「主体的に考え、表現する」授業への転換を推進する。 生徒の学びの状況を細かく把握し、個々のニーズに合わせた支援を行う。 生徒自身が自分の学習を振り返ることができるような授業展開を考える。 資格取得に関する生徒や保護者への積極的な情報提供と支援の充実化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートの「授業に主体的、積極的に取り組んでいる」が前年度より上昇したか。 ②生徒アンケートの「自主学習することが習慣化している」が前年度より上昇したか。 ③生徒アンケートの「資格取得が充実している」及び資格取得に積極的に取り組む生徒が前年度より上昇したか。 	<p>生徒アンケート「Google・クラスルームや学習支援アプリは活用できている」全学年平均85%となった。</p> <p>生徒アンケート「他の教科や科目に関連づけて学んでいる」全学年平均80%となった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○新校の開校に向けて、生徒の「思考力・判断力・表現力」の伸長を目指す授業改善をするとともに、学習意欲の高い生徒の学力を伸ばす取組の強化を引き続き推進する。 ○指導と評価の一体化を目指し、観点別評価を活用した学習改善及び授業改善に努める。また、生徒タブレットを有効的に活用し生徒の学習環境向上に努める。 	<p>実施日 令和8年3月17日</p> <p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数値の対前年比較・目標水準の明確化を求める意見があった。 ・一般高校では2年生終盤には進路絞り込みが進む例あり。目標設定を明確化してもらいたい。 ・資格指導については今後も継続してもらいたい。また進学に対する補習はしていくのか、また模試や予備校との連携は今後どうしていくのかをしっかりと検討してもらいたい。 ・一般受験対応が可能なカリキュラムにはなっているが総合型選抜に向けた取り組みも、今までの課題研究やその他の部分で充実させてもらいたい。
2	<p>【現状】 入学後の満足度が高く、高校生活が充実していると感じている生徒が増加傾向にある。</p> <p>【課題】 基本的生活習慣の確立及び自己管理能力を育成するとともに、自他を大切にすることを育むための支援・指導を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基本的生活習慣の確立 自己理解及び自己肯定感の醸成 社会人としての基礎的な力の定着 学習環境の改善 自己管理能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 10分前登校の推進 気持ちのよいあいさつの励行 学校全体で遅刻数の減少を図る 5S活動やSDGsにつながる授業及び講演会等の実践 タブレットを活用したスケジュール管理の励行 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が前年度より上昇したか。 ②前年度より遅刻数を減らせたか。 ①生徒アンケートの「宮工5S活動を実践できている」が前年度より上昇したか。 ②スケジューラーの活用状況の割合が前年度より上昇したか。 	<p>生徒アンケートの「宮工に入学して良かった」が88%となった。</p> <p>「授業に主体的、積極的に取り組んでいる。」が全学年平均83%となった。</p> <p>生徒アンケートの「宮工5S活動を実践できている」が61%となった。</p> <p>スケジューラーの活用状況の割合が23%となり4%ダウンした。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な行事を通じて、生徒が主役となる活動を推進し、在校生に自信と誇りを与え自己肯定感の醸成に努める。 ○学校生活全体を通じて、基本的生活習慣の確立、社会人基礎力の向上を目指す。また新1学年よりカリキュラムが大幅に変わる。現在よりもレベルの高い大学進学へどのように関わっていくかを考察していく必要がある。 来年度から「5S活動」自体はなくなるが、生徒自身がより意欲的に活動できるよう支援・指導は継続して行う。生徒自身のスケジュール管理や、学年集会等でのメモ取りなどを推進し、自ら行動できる生徒を育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・衛生・マナー等の実践項目の達成率(現状61%)を引き上げる改善計画を策定し、向上させてもらいたい。 ・安全教育(護身・安全行動等)の実践率61%は不十分との認識している。継続的な向上策を推進してもらいたい。 ・保護者として卒業出来てよかったと感じている。先生方の努力がアンケート結果につながっていると思う。不登校生徒への支援も継続してもらいたい。 ・スケジュール管理も含め生徒が積極的に活動したり、主体的になれる場面がもっとあるといいと思う。
3	<p>【現状】 生徒の第一希望の進路実現率が高く、生徒は学校行事や委員会活動等に積極的に取り組んでいる。</p> <p>【課題】 生徒の第一希望の進路実現を目指し、個別最適な支援を行うとともに、望ましい勤労観や職業観の育成のための支援・指導を行う必要がある。また、全ての学習活動を通じて探究する力の育成に努め、生徒の自己実現の支援を行う必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事、委員会活動、部活動等への積極的な参加 探究力向上の支援体制の確立 勤労観や職業観の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 学科教科連携横断による教育活動の実践 生徒の自己理解、自己開発、自己実現へ向けた支援の実践 生徒が主体となった特別活動等の実践 校内組織が連携しての様々な進路指導及び行事の実施 自己理解を重視し適性を見極める一助となる段階的な進路学習及び「進路レポート」の作成と活用 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートの「キャリアパスポートで設定した目標は、計画通りに行っている」の達成状況 ②生徒主体の学校行事が実施されたか。 ①生徒アンケートの「進路行事に積極的に参加している」が前年度より上昇したか。 ②進路実現に向けて、生徒一人一人の主体的な行動をサポートすることができたか。 	<p>生徒アンケートの「キャリアパスポートを活用し、目標に対する計画、達成度について」が61%となった</p> <p>学校行事が充実している88%となった。</p> <p>主体的(積極的)に参加では76%となった。</p> <p>生徒アンケートの「進路行事に積極的に参加している」が全体72%となった。</p> <p>「適切な進路指導が行われている」が84%となった</p> <p>学科横断型課題研究を今年度も実施し、横断型課題研究の推進を図ることができた。</p>	<p>学校行事や部活動に取り組み、目標に向けて前に踏み出す力、ゴールに辿り着く力を育成する。</p> <p>生徒一人ひとりの個人最適な進路実現を目指し、支援体制と支援方法の確立を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポート関連 目標設定が高すぎる/低すぎる問題の是正を行い、行事目標(例: 体育祭優勝)と進路目標を区別し、評価軸を精緻化する必要があると思う。 内容に関しては来年度以降にかけて教務部で設問・運用の見直しを進行し続けてほしい。 ・進路指導関連 進学指導にシフトしていくそうだが、就職を求める生徒には今までと同じような指導をしていくのか。卒業生からの実体験談をより早期から聞きたい。職業観の醸成は保護者の理解・関与が鍵。保護者向け説明会の継続・拡充要望。 進学/就職を分断せず、双方のメリット・デメリットを同時に把握できる「混合型説明」の機会が欲しい。
4	<p>【現状】 地域や企業、大学等との連携による「協働教育」が進められている。取組や魅力を伝えるための情報発信に努めている。</p> <p>【課題】 地域社会等との連携を強化するとともに、持続可能な学校外連携の構築に努める必要がある。また、新校開校情報を様々な方法で情報発信を強化する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会等との連携強化 新校開校の積極的な情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> 各コミュニティセンターや公共施設を用いた、探究色のある「ものづくり教室」等を開催して、工業高校魅力発信と地域連携強化を図る。 新校が中学生にとって「行きたい学校」となるよう、中学生及び保護者や中学校教員、学習塾関係者に新校の魅力を広く周知徹底を行う。 学校HPや学校公式Instagram、オンラインを活用した積極的な新校の魅力発信 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケートの「教育活動の外部発信に積極的に参加できたか」の状況。 ②本校の取組や魅力を学校内外に十分伝えることができたか。(進路希望調査の結果を用いる) 	<p>38%の生徒が「教育活動の外部発信に積極的に参加できた」と回答</p> <p>昨年度より少なくなった。</p> <p>Instagramフォロワー数1536となり、昨年度より500ほど増えた。</p> <p>今年度は新校に関する情報発信を学校説明会等の広報行事を増加した。</p>	<p>生徒の日々の学校生活の様子や本校の魅力を積極的に学校内外に発信するとともに、生徒が主体となった連携事業を推進していく。</p> <p>動画やSNSなどを活用し、来校しなくても本校の魅力が伝わる方法の検討が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会関連 学校説明会が多く行って生徒の質が向上したようだが、倍率にはつながっていない。説明会の内容自体ももっと濃いものとしてほしい。 生徒の外部発信参加率(38%)の前年割れが気になる。大人より生徒を活用して発信の方が中学生にはわかりやすいので、もっと活用する方法を考えてもらいたい。 ・地域との交流 地域との連携は今後も大切にしていきたい。工業高校を身近に感じる良い機会となりました。